

暮らしの、新たな原動力へ。



2024年3月期第2四半期 決算説明会

目次

I. 2024年3月期第2四半期 決算概要

II. 2024年3月期 業績予想

III. 中長期経営計画の取り組み

“Creating New Value for the Future”1stステージ

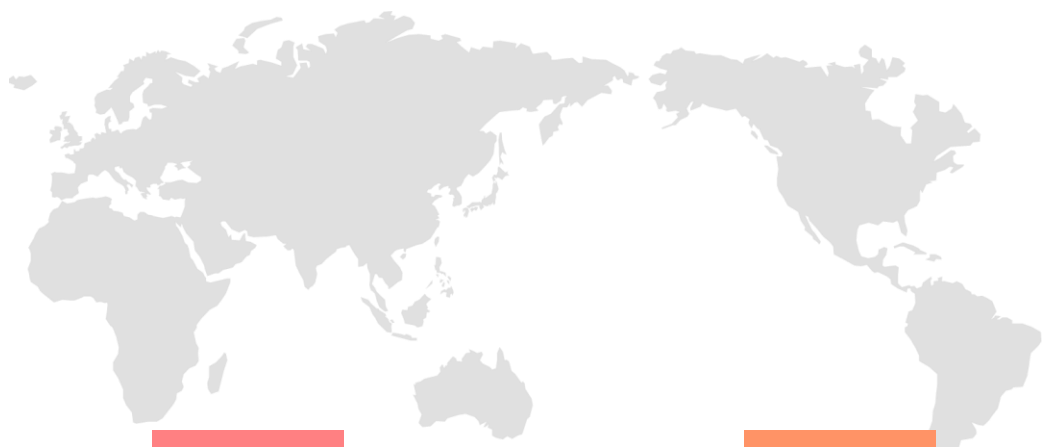
I . 2024年3月期第 2 四半期 決算概要

2024年3月期第2四半期 決算ハイライト

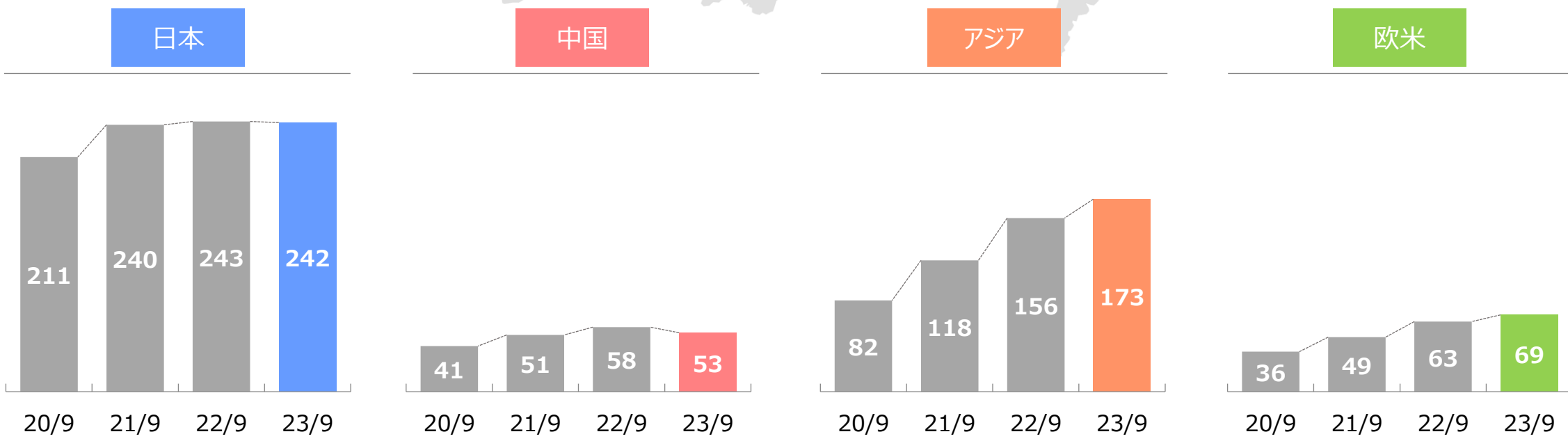
(単位：百万円、%)

		2022/9	2023/9		2024/3	
		実績	実績	前期比	業績予想値 (2023/11/9)	進捗率 (対業績予想値)
売上収益		52,200	53,927	+1,726	105,000	51.4%
コア営業利益		3,648	3,758	+109	7,500	50.1%
コア営業利益率		7.0%	7.0%	+0.0%	7.1%	-
営業利益		4,371	4,515	+144	8,700	51.9%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益		3,568	3,671	+102	6,300	58.3%
為替レート	U S D	135.00	142.61	-	140.00	-
	T H B	3.70	4.08	-	4.00	-
	人 民 元	19.50	19.88	-	19.50	-

2024年3月期第2四半期 所在地別売上収益



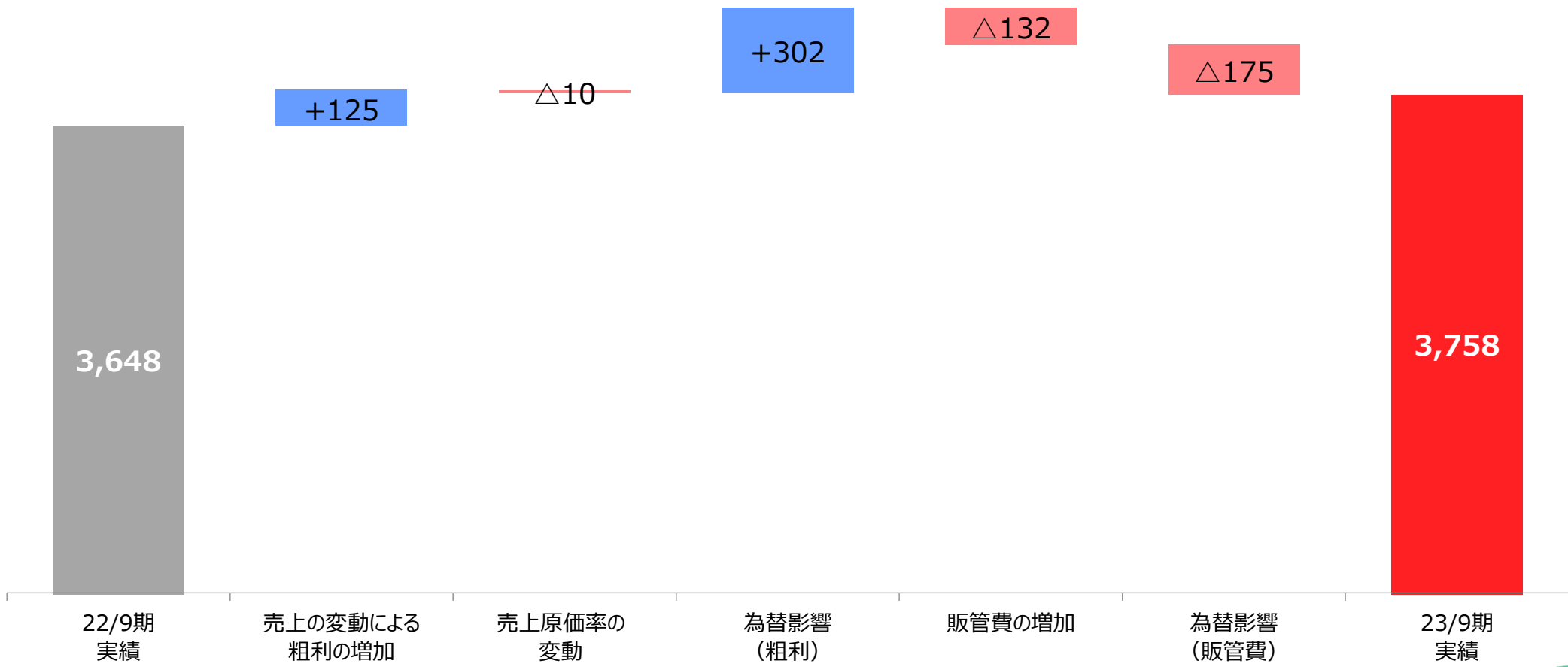
(単位：億円)



(注)所在地別売上収益はセグメント間取引消去後。

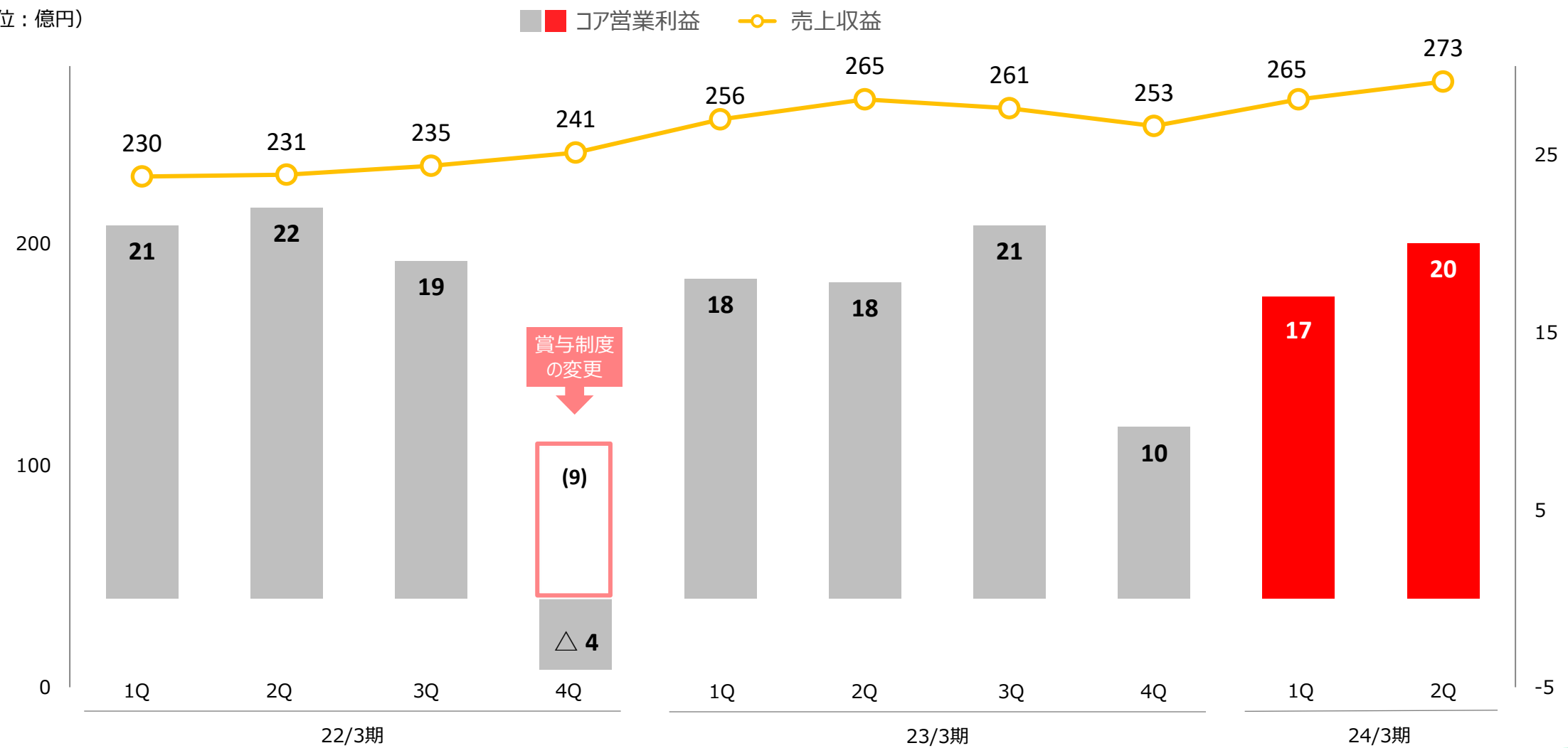
2024年3月期第2四半期 連結コア営業利益 増減分析

(単位：百万円)



四半期推移（売上収益/コア営業利益）

(単位：億円)



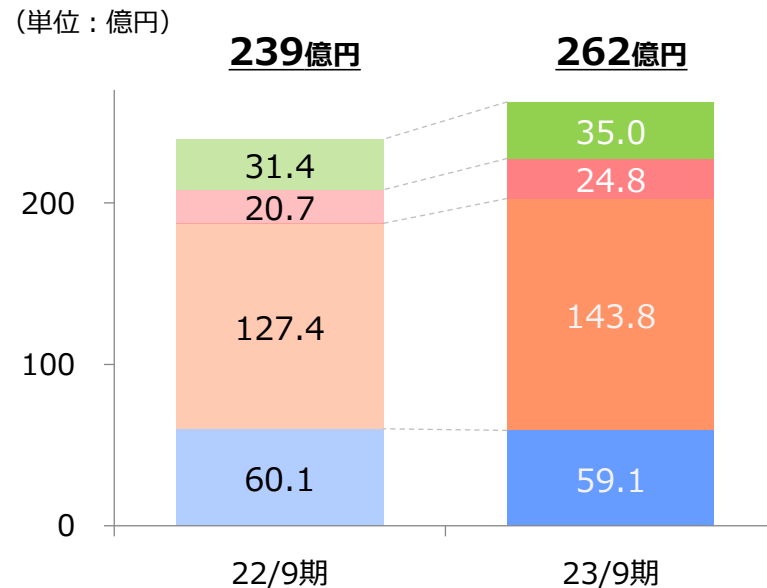
2024年3月期第2四半期 セグメントの状況

(単位：百万円)

	2022/9	2023/9		
	実績	実績	増減額	増減割合
売上収益	52,200	53,927	+1,726	+3.3%
自動車部品事業	23,993	26,270	+2,277	+9.5%
産業資材事業	18,586	18,518	△68	△0.4%
高機能エラストマー製品事業	7,539	6,932	△607	△8.1%
その他	2,449	2,634	+185	+7.6%
セグメント間消去	△368	△427	△59	-
コア営業利益	3,648	3,758	+109	+3.0%
自動車部品事業	1,535	1,820	+285	+18.6%
産業資材事業	1,898	1,896	△2	△0.1%
高機能エラストマー製品事業	241	△76	△317	-
その他	△12	△47	△34	-
セグメント間消去等	△14	164	+178	-

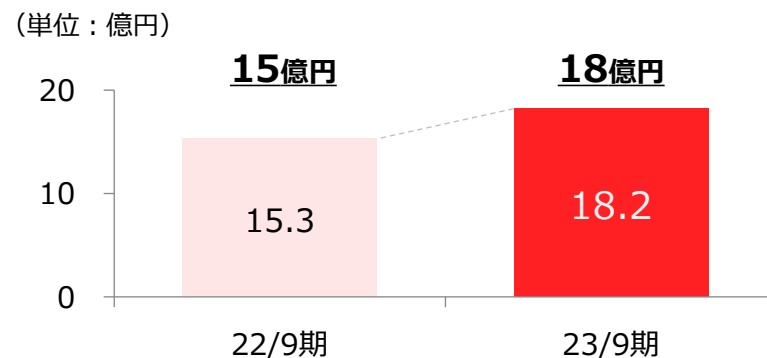
自動車部品事業 概要

所在地別売上収益



欧米他	+11.1%	■ 補修市場向け製品の販売が増加。
中国	+19.1%	■ 景気減速の影響を受けつつも、自動車生産台数の回復により、補機駆動用伝動ベルトの販売が増加。
アジア	+12.8%	■ 主要顧客の生産回復により、補機駆動用伝動ベルトおよび伝動システム製品の販売が増加。 ■ 二輪車用変速ベルトの販売も増加
日本	△1.7%	■ 主要顧客の生産回復により、補機駆動用伝動ベルトの販売が増加。 ■ 当社製品採用車種の減少にともない、補機駆動用伝動システム製品の販売が減少。

コア営業利益

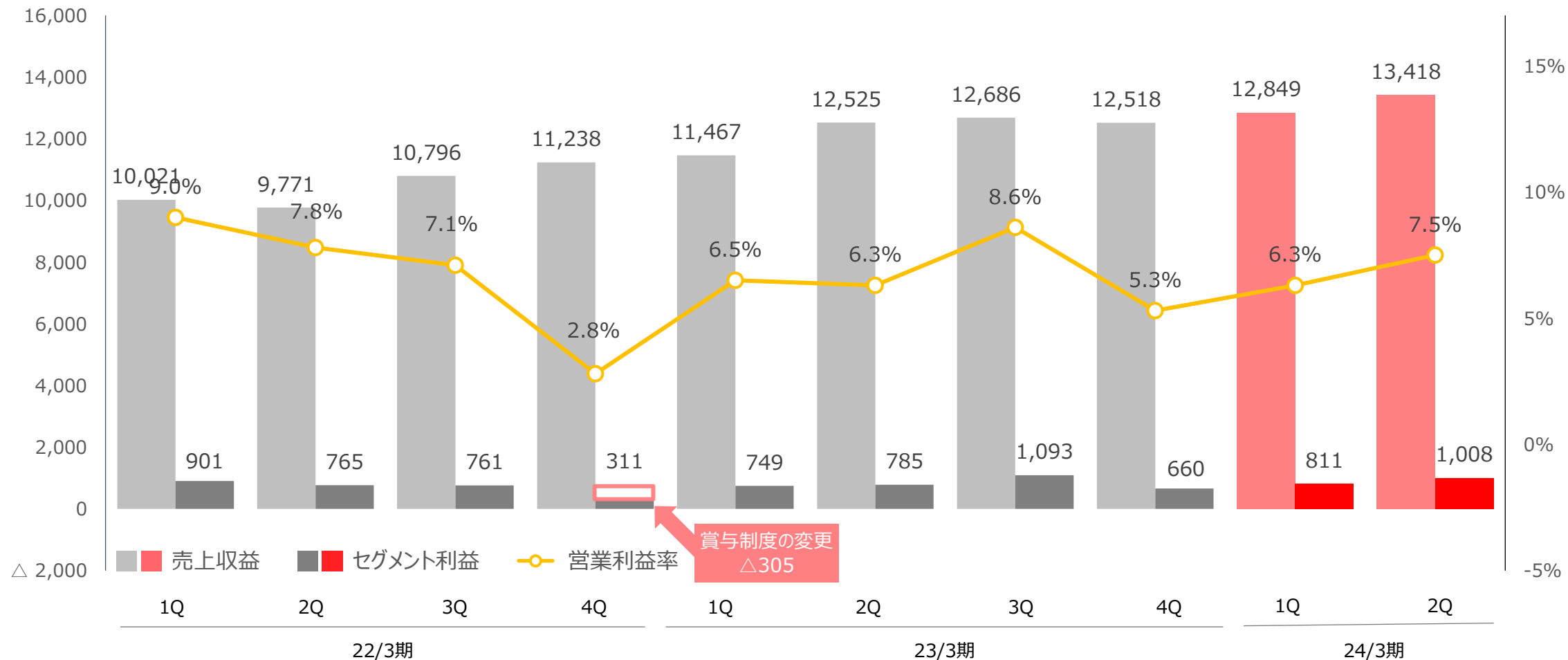


コア営業利益	+18.6%	■ 販売の増加により、利益が増加。
--------	--------	-------------------

(注)所在地別売上収益はセグメント間取引消去後。

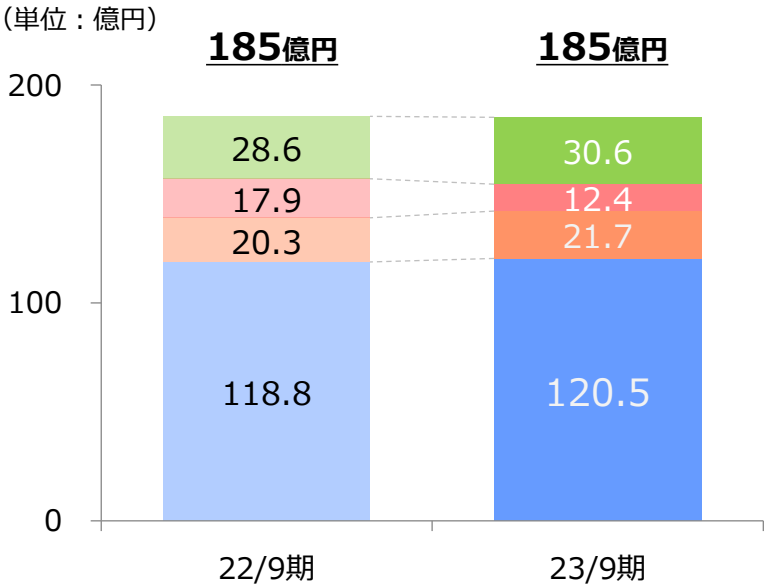
自動車部品事業 四半期推移

(単位：百万円)



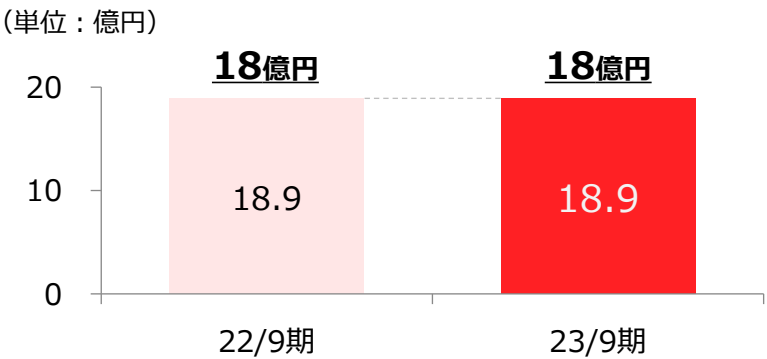
産業資材事業 概要

所在地別売上収益



欧米他	+7.0%	産業機械用伝動ベルトなどの販売が増加。
中国	△31.2%	農業機械用伝動ベルトなどの販売が減少。
アジア	+6.5%	インドにおいて農業機械用伝動ベルトの販売が増加。 タイ・ベトナムにおいて、農業機械用伝動ベルトの販売が減少。
日本	+1.3%	民間設備投資の減少により、産業機械用伝動ベルトの販売が減少。 コンベヤベルトおよび樹脂コンベヤベルトの販売が増加。

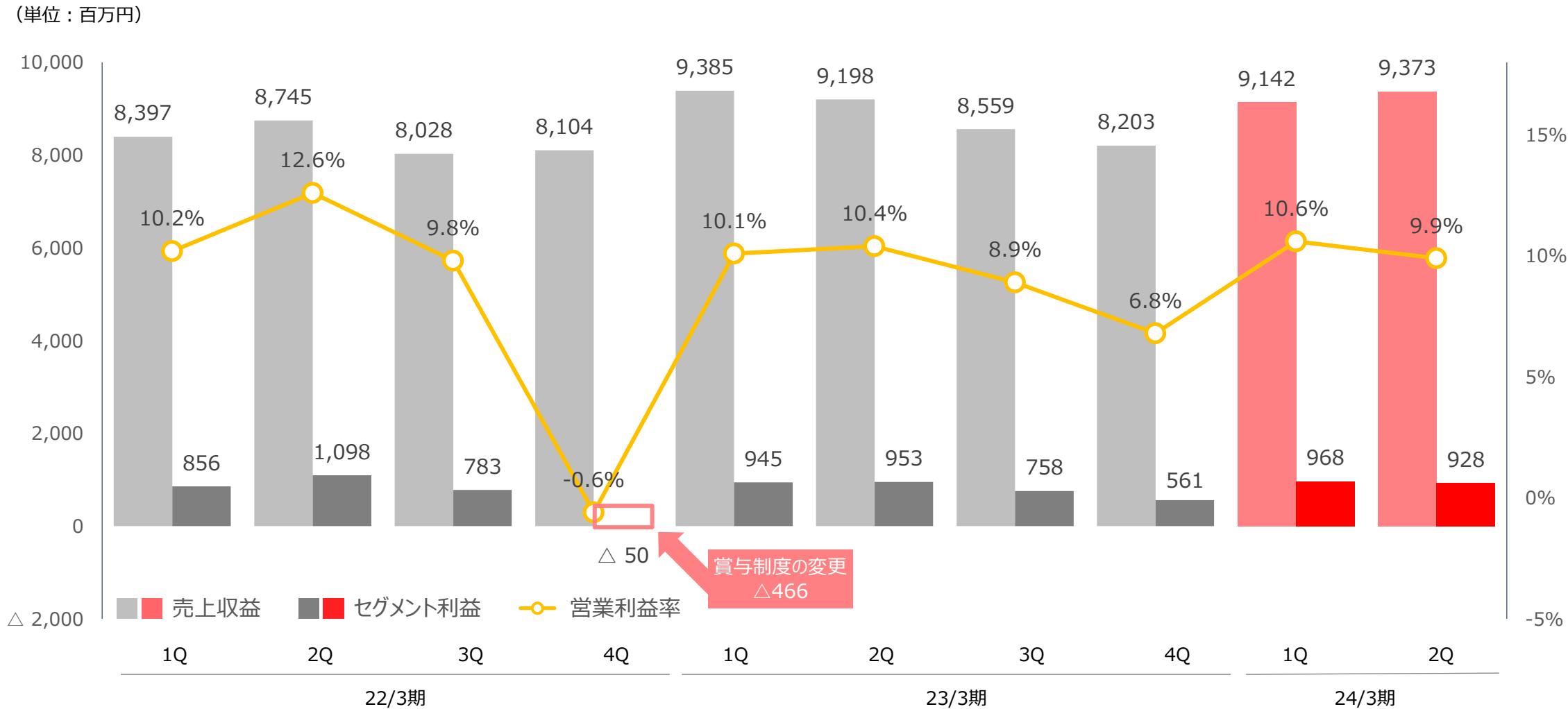
コア営業利益



コア営業利益	△0.1%	販売の減少により、利益が減少。
--------	-------	-----------------

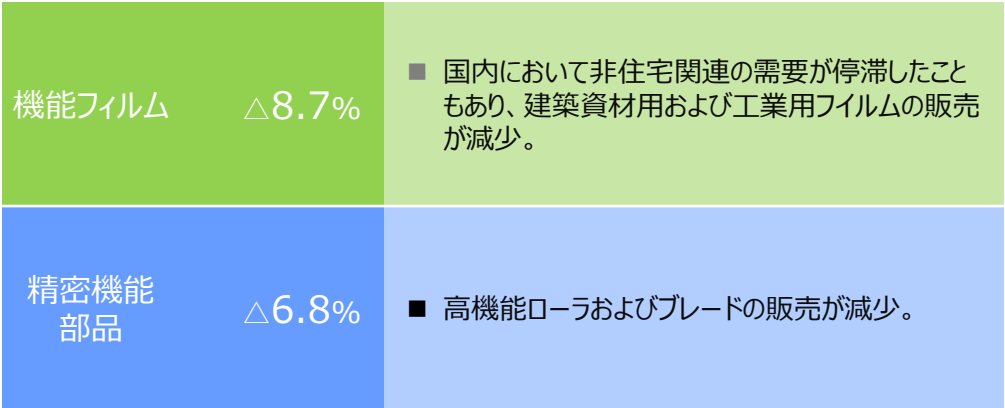
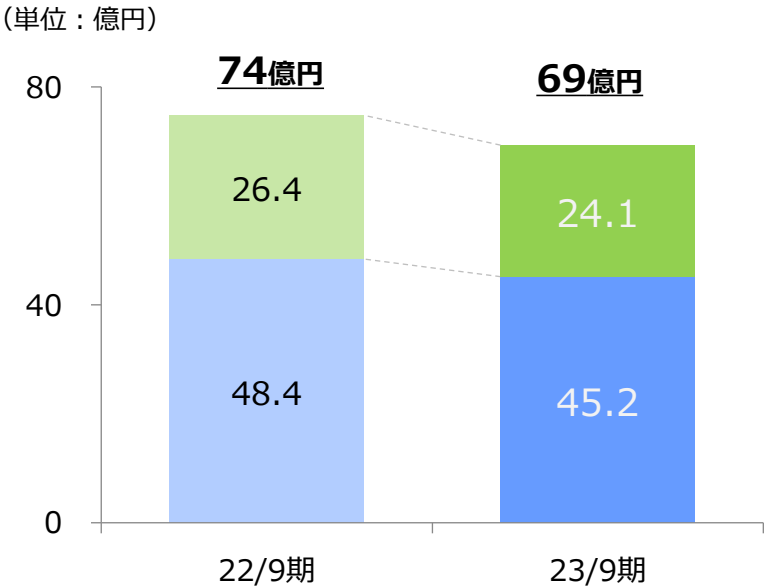
(注)所在地別売上収益はセグメント間取引消去後。

産業資材事業 四半期推移

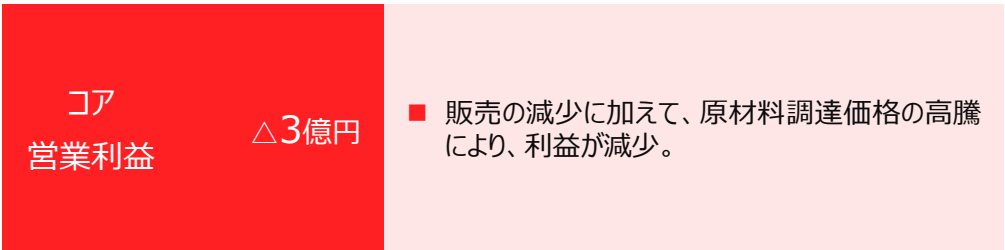
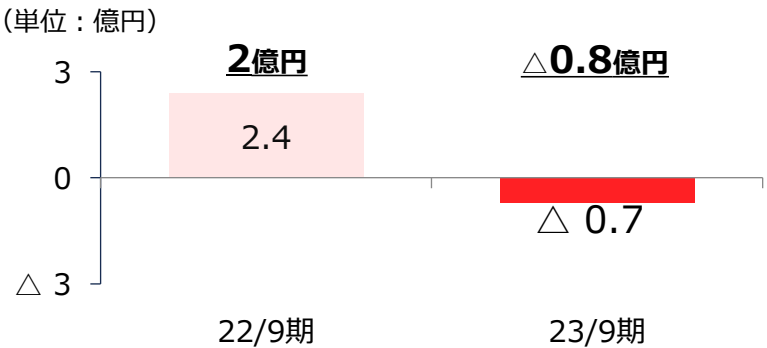


高機能エラストマー製品事業 概要

製品別売上収益

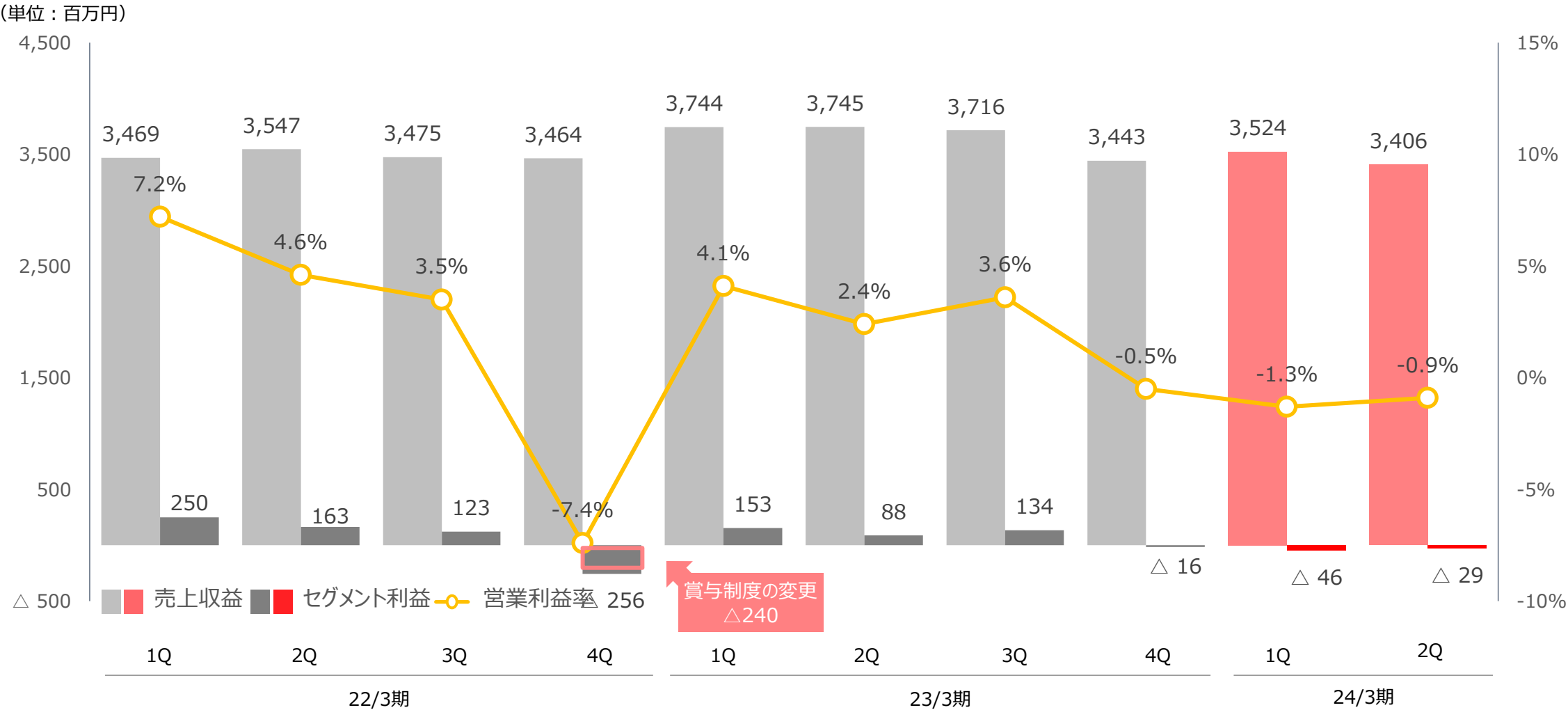


コア営業利益



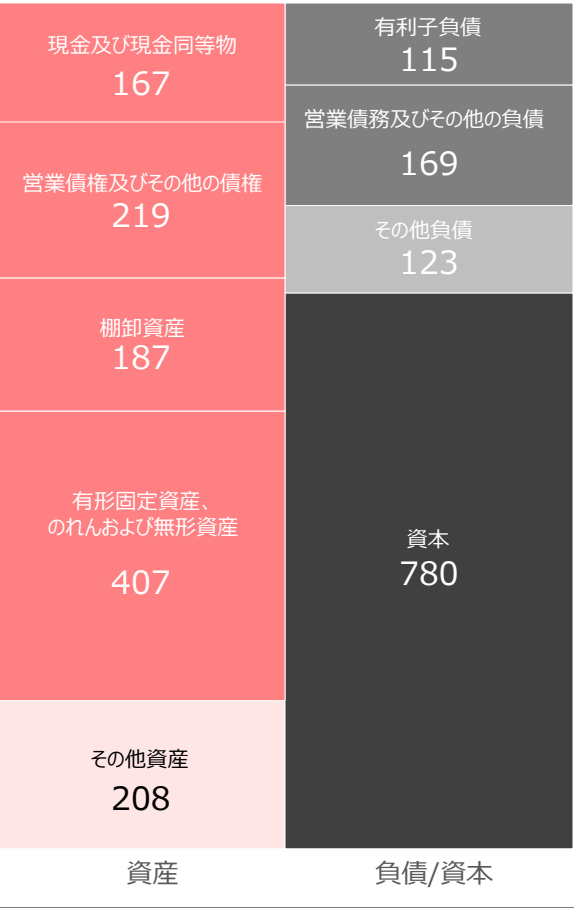
(注)製品別売上収益はセグメント間取引消去後。

高機能エラストマー製品事業 四半期推移



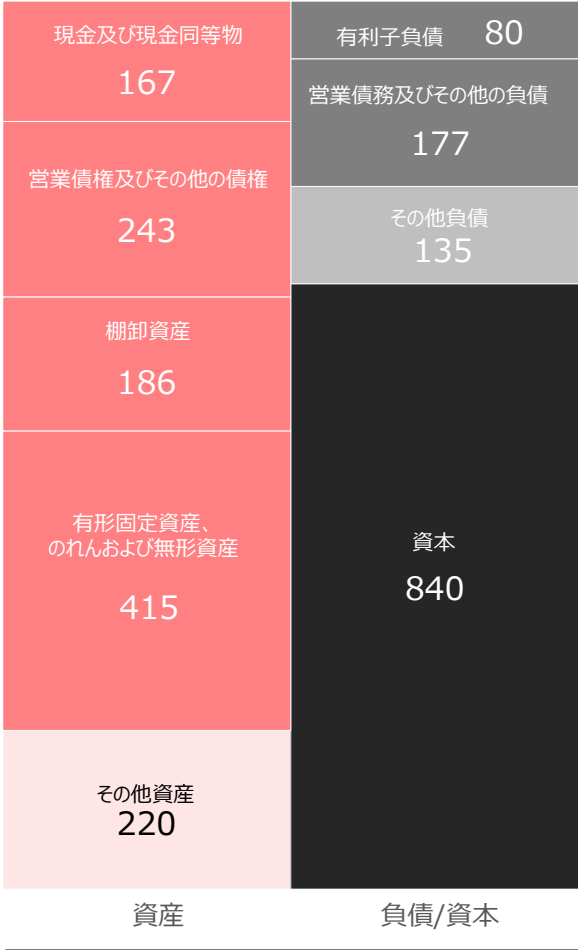
連結財政状態計算書

(単位：億円) **1,189億円**

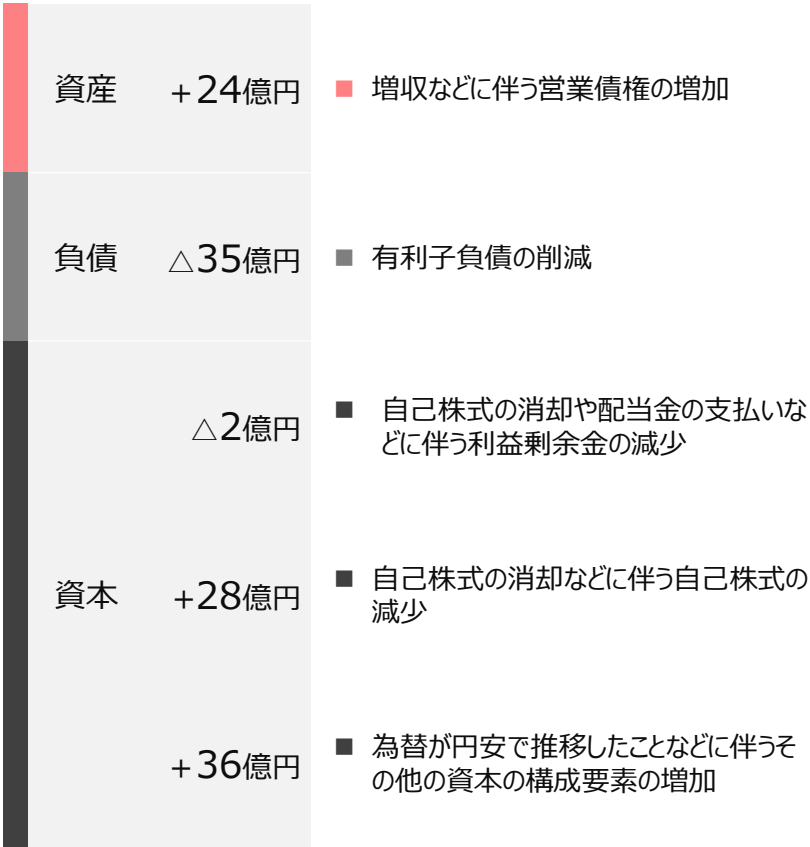


23/3期

1,233億円



23/9期



Ⅱ． 2024年3月期 業績予想

2024年3月期 業績予想

(単位：百万円、%)

		2023/3	2024/3予想			
		実績	修正前	修正後	前期比（修正後ベース）	
売 上 収 益		103,608	105,000	105,000	+1,391	+1.3%
コ ア 営 業 利 益		6,734	7,500	7,500	+765	+11.4%
コ ア 営 業 利 益 率		6.5%	7.1%	7.1%	+0.6%	-
営 業 利 益		8,259	8,700	8,700	+440	+5.3%
親 会 社 の 所 有 者 に 帰 属 す る 当 期 利 益		5,722	6,000	6,300	+577	+10.1%
為替レ ー ト	U S D	136.00	130.00	140.00	-	-
	T H B	3.84	3.70	4.00	-	-
	人 民 元	19.72	18.50	19.50	-	-

以下の影響を総合的に勘案し、親会社の所有者に帰属する当期利益を上方修正

- 中国の景気減速などにより、当社製品の販売数量は当初想定を下回る見込み
- 通期の想定レートを円安方向に見直し（1米ドル130円を140円に）

Ⅲ. 中長期経営計画の取り組み

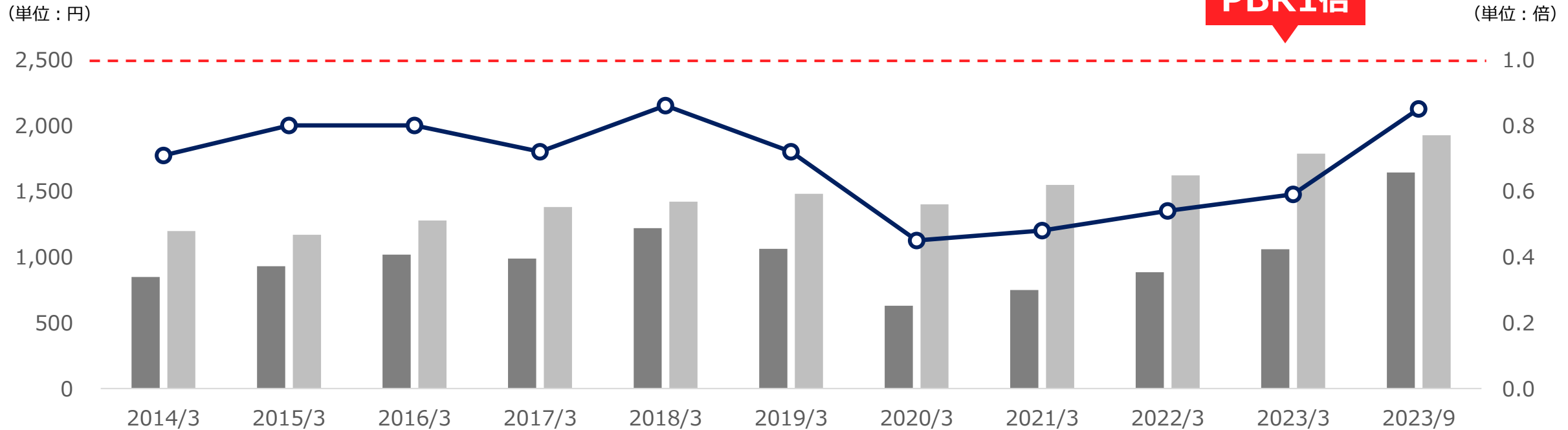
“Creating New Value for the Future”1stステージ

企業価値（株式価値）の向上に向けた現状分析①

- ・ 足元では、業績の回復および株主還元方針の変更により、当社のPBRは改善傾向
- ・ PBR1倍未満の状況が続いており、企業価値（株式価値）の向上は経営上の大きな課題

PBRの推移

■ 期末株価 ■ BPS ○ PBR

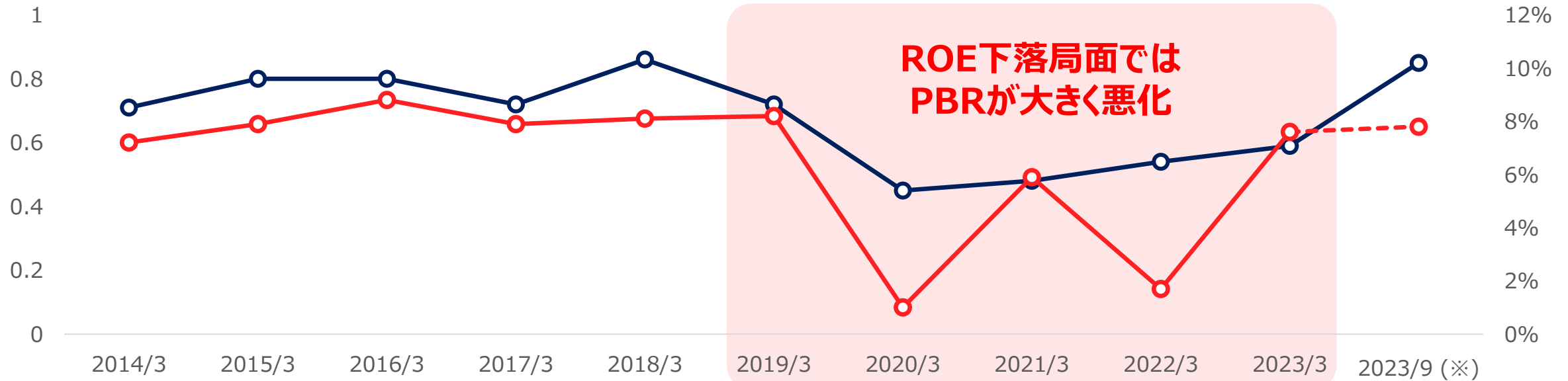


企業価値（株式価値）の向上に向けた現状分析②

- PBR** = **ROE** × **PER**
- PERは株式市場全体の動向にも大きく左右され、当社でのコントロールが難しい
 - PBRとROEの変動は強く相関しており、PBRの改善に向けてはROEの向上が不可欠

PBRとROEの推移

(単位：倍)



※ 2023年9月期のROEは、2024年3月期通期業績予想（修正後）に基づいて算定

資本コスト・株価を意識した経営に向けた取り組み

目標

2027年3月期までにROE12%を達成

- ・株主資本コスト（CAPMベース）は7%程度
- ・足元のROEは株主資本コスト（CAPMベース）を超過しているが、PBRは1倍を下回っている
- ・市場の期待リターンとの間に乖離があると認識し、さらなるROE向上を図る

方針

中計(CV-1)に基づき、収益力の強化と資本効率の向上の両輪で臨む

収益力の強化

- ・将来を見据えた事業ポートフォリオ変革の実施
- ・事業の収益性・成長性に基づき投資を選別
例) 再構築事業：原則として投資抑制、コア事業：稼ぐ商品に投資を配分、
新規事業：事業拡大に向けて積極的に投資を配分
- ・高い品質と稼ぐ力を両立するものづくりの実現：デジタル化、最適生産・最適調達

資本効率の向上

- ・株主還元方針の変更などのB/Sマネジメント

収益力の強化に向けた取り組み①

自動車部品事業：電動化/環境規制対応製品の拡充

- ・ 静粛性を武器に、海外を中心にラック式EPSベルトの販売が一層拡大
- ・ 需要の増加を受けて、国内の生産ラインを増設し、生産能力を引き上げ



新規事業：電子資材事業の事業化

- ・ 無加圧タイプの銀ナノ接合材「FlowMetal®」に対する引き合い増加
- ・ パワー半導体用途での需要拡大を見据え、生産ラインのスケールアップに着手



新規事業：医療機器・ヘルスケア機器市場への連続的な上市

- ・ 当年度上期から、吸収性骨再生用材料「e=Bone®」の国内販売を開始
- ・ 売上・プロモーション件数とも、計画を上回って進行中



収益力の強化に向けた取り組み②

北米事業



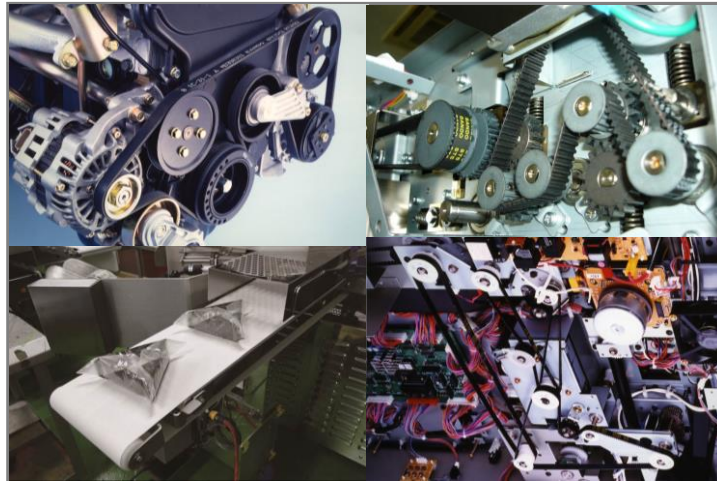
課題

- 賃金の上昇等による製造コストの上昇
- 人員の確保が困難となり生産性低下

現状の取り組み

- 内外製品のバランスの最適化による採算性の向上

製品の統廃合



課題

- 仕様数の増加による生産性の悪化
- コスト増加に伴う収益性の低下

現状の取り組み

- 仕様統合プランの策定
- 選別受注や値上げによる収益性の見極め

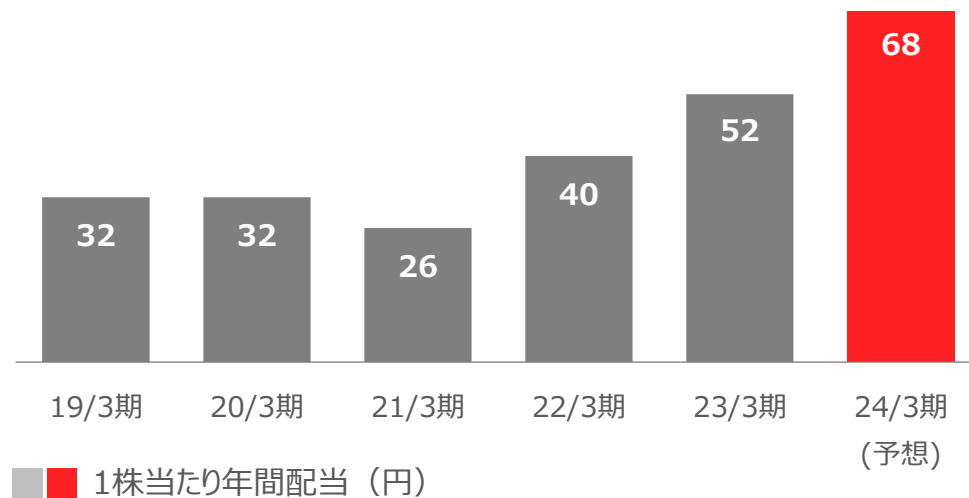
資本効率の向上（株主還元）

- 株主還元方針を変更し、連結配当性向を50%まで引き上げ
- 自己株式の取得（市場買付）を決定**

取得株式数	80万株（上限）	取得金額	10億円（上限）
取得期間	2023年11月10日～2024年3月31日		

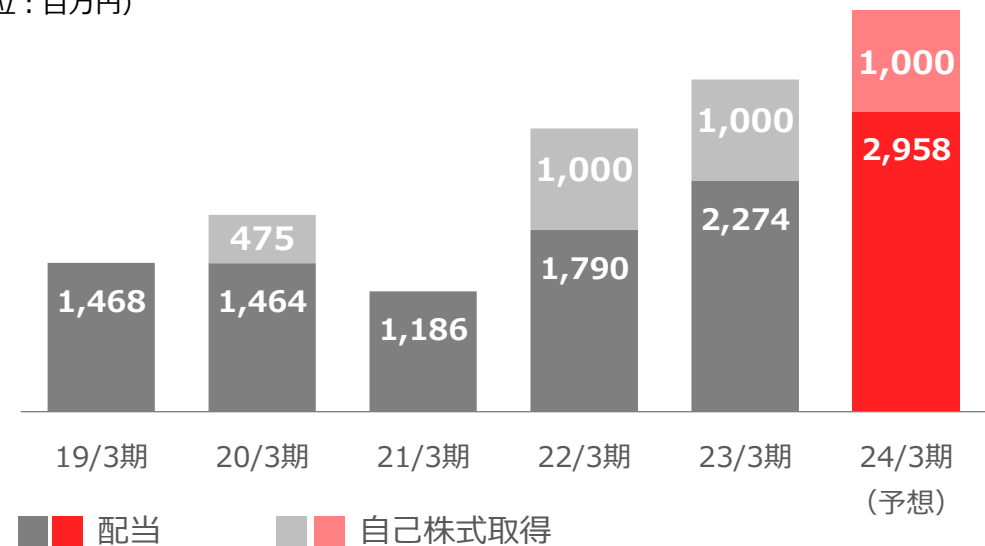
1株当たり年間配当の推移

（単位：円）



株主総還元額の推移

（単位：百万円）



（注）従業員持株ESOP信託および
役員報酬BIP信託への支払配当控除後

株主・投資家との対話状況①

主な対応者

決算説明会



代表取締役社長

投資家・アナリスト面談



IR担当

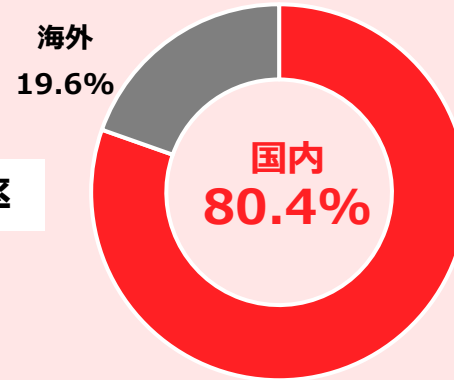
対話の主なテーマ・ 関心事項

- ・各セグメントのビジネスモデル、競合状況、当社の強み
- ・EV化の影響
- ・中長期経営計画の方向性や進捗状況
- ・キャッシュアロケーション（設備投資、株主還元など）
- ・現状の株価に対する評価、課題

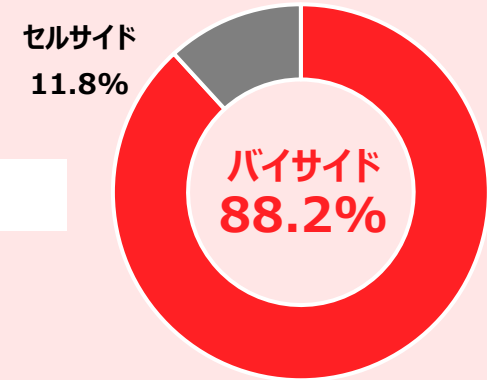
株主・投資家との対話状況②

対話を行った 株主・投資家の概要 (2022年度実績)

国内・海外比率



属性比率



経営陣への フィードバック

決算説明会（年2回）

決算説明会における質疑応答を報告

投資家・アナリスト面談（年4回）

四半期ごとに、投資家・アナリスト面談結果を取りまとめ、関心が高いテーマや意見・要望などを報告

主な対話の成果

決算開示資料の充実

決算説明会を実施していない第1四半期・第3四半期に関しても「決算概要」の作成を開始。当年度から決算発表と同時に、東京証券取引所のTDnet・当社ホームページで公表。

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。又、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。